

6. 学習方略委員会^{*1}

首藤 太一^{*2}（委員長・大阪市立大学大学院医学研究科総合医学教育学）

本委員会としては、次の3つの課題に取り組むこととした。①シミュレーション教育、②Simulated Patient（SP：模擬患者）参加型教育、③多職種連携教育である。Web会議を中心に年4回の委員会を行っている。

成果は、以下のとおりである。

(1) 第48回日本医学教育学会総会

大会期間中に、「シンポジウム：医学生の実臨床能力を向上させるために」を実施した。座長は廣橋一裕・藤崎和彦、演者は石川和信、小松弘幸、阿部恵子、首藤太一であった。

また、サテライト企画として、「シムリンピックおおさか2016」を開催した。出場16チーム（48名）が8課題に挑戦した。

(2) 第49回日本医学教育学会総会

「シンポジウム：シミュレーション医療教育の現状と展望」を企画開催した。座長は首藤太一・武田聡、演者は石川和信、小松弘幸、栩野吉弘、大内元であった。

また、サテライト企画として「シムリンピックさっぽろ2017」を開催し、出場9チーム（27名）が5課題に挑戦した。

(3) 文部科学省【大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業】受託

2015年から「国内外の医療系学部等におけるシミュレーション教育・研修に関する調査研究」を2年間で行い、2017年3月に総括シンポジウムを宮崎大学で開催するとともに、報告書を作成した。

今後、本委員会で開催してきた過去4回のシムリンピックの検証を行い、3つの課題への端緒としたい。

副委員長：藤崎和彦、委員：石川和信、小松弘幸、阿部恵子、志賀隆、竹本恭彦、栩野吉弘、前野貴美

^{*1} Learning Strategy Committee

^{*2} Taichi Shuto

7. 学習者評価委員会^{*1}

平形 道人^{*2}（委員長・慶應義塾大学医学部医学教育統轄センター）

医療安全、患者中心の医療などの国民の期待に応えるために、「医学教育の質保証」が強く求め

られている。わが国においても医学教育分野別評価が開始され、学習者中心の学修成果基盤型教育